

# すまいるたうん



## 25年の歴史、 徳寿大学



「無理せず、休んでも大丈夫。気楽に参加していただければ」

先月、25周年の式典を終えた徳寿大学理事長小川平吉さん（79歳）は、おっしゃっています。

徳寿大学は、昭和57年に創立され、現在会員は百四十名。4月開講入学式に始まり、3月修了で、年会費5千円です。

月1回サンパール荒川小ホールで講義を聞き、その他の活動として社会協議福祉会で月1回の池坊流のいけばな教室（花代900〜1000円自己負担）も年会費千円で参加できます。

お花の先生の佐藤才さんは今年で93歳になります。徳寿大学は、4つの班に分かれ、班内の交流もあります。理事の下の統括長4人は皆さん90歳近くの年齢で、元氣よく頑張っておられます。

田代志江さん（77歳）が、班長をさされている班は、全員で11人。講義が済んだ後に皆でお茶を飲んだり、旅行したりと和気あいあいです。

「講義を聞きに行つて右から左に流れていく中、でも、何か一つ頭の中に残る物があると思う。」

「この歳になつてお友達を作る機会つてなかなかないのよね。」とおっしゃつて

いたのは、加藤照子さん（78歳）。8年前にご主人を亡くされた山川節さんも（78歳）、いけばな教室を楽しみにされています。



専業主婦歴50年、半年前にご主人を亡くされた北区のお住まいの芝山トキさん（78歳）、持病もあり、外になかなか踏み出せなかったのですが、田代さん達の励ましやお誘いを受けて、後期から参加する予定。一歩前進して、新しい人生を歩み出せそうです。

55歳以上の方なら宗教、政党、関係なく荒川区以外の方でも参加できます。車で参加される方、杖をついて来られる方もいます。最高年齢は95歳です。荒川区全体で65歳以上は、総人口の22%、3万9千405人（6月1日現在）です。若い時と違つて、新しいことを始めるには、躊躇されると思います。

「人間は老いると鈍感になるとよく言われますが、年齢を重ねるに従い、感受性はむしろますます研ぎ澄まされるように感じる」と今年95歳になる日野原重明先生もおっしゃっています。

また、「老いる」ということでは、「外とのふれあう場を作つてあげよう」

「老人が、外界との接触、コミュニケーションが保たれる場を周囲が作り、そのなかで老人が生きがいを感じるように配慮すべきである」とも言われています。

あたらしい  
門出をする

者には新しい  
道がひらける

みつと

自分の花

名もない草も  
実をつける

いのちいばいに  
自分の花を

咲かせて

みつと

よりよく人生を生きていくため、まずは、9月22日午後2時（午後1時半開場）からの講義をサンパール小ホールに聞きに行つてみませんか。

会場の受付には、笑顔の田代さんが待っていてくれます。後期から入学を希望される方は、まずご連絡下さい。

（問合せ）徳寿大学事務局

電話 3807-8462 または、

スマイル ライフ

電話 5850-3707

